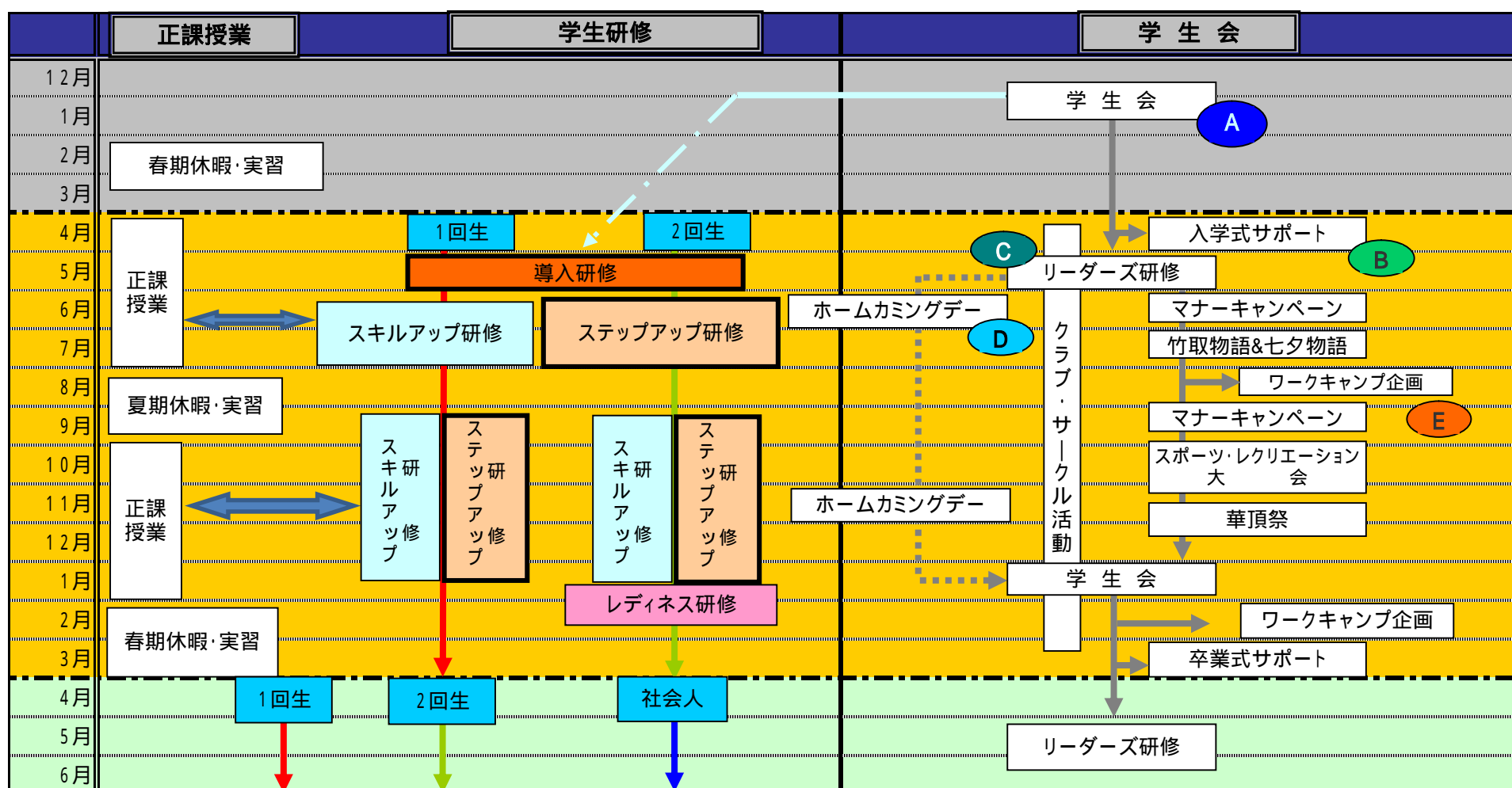


# 学生支援と学生研修のあり方



## 【研修の概要と流れ】

## 【学生会の取り組み内容】

**入口**

**【導入研修】映画から学ぶ命の大切さ**  
 新1回生・新2回生共通で、映画鑑賞をとおして多様な人の存在を知り、そうしたさまざまな人たちとの共生と協働の大切さを理解してもらうこととあわせて、自らが主体的に生きることの大切さ「命」の大切さを考えるとともに、学生としての自覚を持って主体的に参加する学生生活へとつなげる。

**【スキルアップ研修】**  
 学生自らが、自分自身の興味に基づいて、自分自身が高めたい知識や教養を高めたいように多様なメニューの中から1・2回生共通で、受講したい講座・研修を選択して受講する。講義の内容は、学生や教員などの意見を参考にしながら受講したいメニュー等を用意する。  
 スキルアップ研修の内容：(平成21年度実施分)  
 マナー研修(知って得する社会で求められるマナー) アメリカ短期インターンシップ研修 未来のこども絵本大賞 パソコンテクニック研修(社会に出てから役立つシリーズ ビジネス文書編、表計算編、チラシ作成編) ノートテイク養成講座 お琴を楽しく弾いてみませんか

**【ステップアップ研修】**  
 1回生  
 2回生になることを前提として、基本的な社会人としてのマナーを再度確認すると共に、進路の選択などについて考える機会とする。1回生という位置から旅立つための研修として位置づける。  
 2回生  
 目の前に迫った卒業を前提として、社会人になることの意味などを学ぶとともに、社会人になるための知識・マナーを再確認する。華頂短大生という位置から旅立つための研修として位置づける。特に、卒業直前の「レディネス研修」は、華頂短大生という位置からの「出口」として位置づける。  
 ステップアップ研修の内容：(平成21年度実施分)  
 就職ガイダンス 公務員試験対策講座 保育職就職ガイダンス 幼稚園教諭 職就職ガイダンス 福祉職就職ガイダンス 編入学ガイダンス&編入学合同説明会 マナー研修(就職準備編) 自己分析・自己PR講座 就職試験対策講座(筆記試験編、面接試験編) 華頂交流合宿 レディネス研修(4月からいよいよ社会人)

**出口**

A:学生会 C:リーダーズ研修  
 学生会は学生活動の要であり、4月に代表者を選出し、リーダーズ研修においてその1年の事業の計画を立てる。その上で、それぞれの事業を学生会主催で各実行委員会と学生センターが協力しながら運営する。年末に学生会を開催し、その年の総括と次年度の方針を確認する。  
 \*スポーツ・レクリエーション大会=学生会を中心とした行事で、学科を越えた学生同士がスポーツやレクリエーションを通して交流する。

B:学生会主催学生支援プログラム  
 \*入学式サポート=単に事務方の手伝いをするのではなく、学生独自の視点で新入生の歓迎をする。また、クラブなどの勧誘や紹介パフォーマンスもする。  
 \*マナーキャンペーン=学生会が中心となって学生のマナーを考え、全学にアピールできる内容の取り組みをする。マナーキャンペーンのゴールを白川清掃にする。  
 \*竹取物語・七夕物語=七夕飾りを竹を取るところから学生たちが取り組む  
 \*華頂祭=学生の祭典として学生たちが、楽しみ、高めあえる取り組みを実施する。  
 \*卒業式サポート=2回生を中心に短大最後の締めくくりとしての記念祝賀謝恩会を企画・運営する。1回生はサポートに関わる。

D:ホームカミングデー  
 年2回開催し卒業生の支援をする。6月のプログラムは、現役教員や卒業生などの協力を得て、テーマ別分科会形式で実施する。形態としては 全体会=基調講演 分科会 討議報告 交流会  
 11月は、華頂祭に招待し同窓生や在学生との交流を深めてもらう。  
 場合によっては、特別セミナーなどの学びの場も設ける。

E:ワークキャンプ企画  
 社会的課題の現場に出向き、宿泊をしながら課題解決のプロセスに関わる体験型の社会貢献プログラム。夏休み・春休みの長期休暇中に3泊程度の日程で実施する。プログラムはワーク ディスカッション 地元の人たちとの交流を中心に、参加者の主体的参画によって運営する。

### 学生支援の基本的な考え方

学生支援は、建学の精神「生命の尊さを深く理解し、素直に感謝のできる社会人を育成する」に基づいて、よき社会人として巣立っていくことを支援するもので、正課授業と正課外活動などの組み合わせによってなされるものである。  
 中でも「学生研修」と「学生会の取り組み」は、学生支援の一つの柱として位置づけることができることから、より充実した内容にするため、学生の「自発性・主体性」に基づいた「参加と学び」をコンセプトとして、従来の取り組みをベースに新たな視点を加えて整理したものが今回の取組内容である。